



JAPANESE B – STANDARD LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS B – NIVEAU MOYEN – ÉPREUVE 1
JAPONÉS B – NIVEL MEDIO – PRUEBA 1

Thursday 3 November 2005 (morning)
Jeudi 3 novembre 2005 (matin)
Jueves 3 de noviembre de 2005 (mañana)

1 h 30 m

TEXT BOOKLET – INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this booklet until instructed to do so.
- This booklet contains all of the texts required for Paper 1.
- Answer the questions in the Question and Answer Booklet provided.

LIVRET DE TEXTES – INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- N'ouvrez pas ce livret avant d'y être autorisé(e).
- Ce livret contient tous les textes nécessaires à l'épreuve 1.
- Répondez à toutes les questions dans le livret de questions et réponses fourni.



CUADERNO DE TEXTOS – INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra este cuaderno hasta que se lo autoricen.
- Este cuaderno contiene todos los textos para la Prueba 1.
- Conteste todas las preguntas en el cuaderno de preguntas y respuestas.

第一部

問題 A

大学生、きれいな食べ物「ある」が 90%

| きれいな食べ物ランキング | | | | | | |
|--------------|------|------|--|---|------|------|
| 男子 | | | 女子 | | | |
| 1 | なっとう | 13 人 |  | 1 | なっとう | 13 人 |
| 2 | セロリ | 7 | | 2 | レバー | 10 |
| 3 | しいたけ | 5 |  | 3 | 魚 | 10 |
| 4 | なす | 5 | | 4 | かい | 6 |
| 5 | たまご | 5 | | 5 | しいたけ | 6 |

「きれいな食べ物がありますか」。大阪大学大学院の山本教授が 292 人の大学生にきいてみました。すると、262 人が「ある」と答えました。きれいな食べ物はいろいろありましたが、一番多かったのは「なっとう」でした。

きれいになったのは 80% が小学生の時。きれいになった理由で一番多かったのは、「食べた後で気分が悪くなった」(73 人)。その次は「まずかった」(64 人)。「給食の時に、先生に無理に食べさせられてきれいになった」と答えた人も 26 人いました。

山本教授は「給食をおいしくしたり、給食の時間を楽しくしたりするのが大事」と話していました。

問題 B

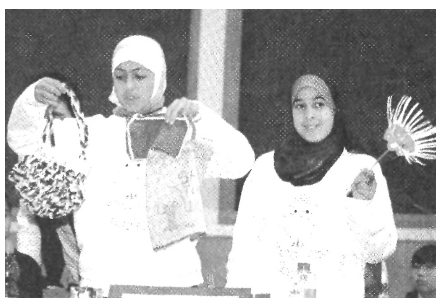


「ごみをへらす目的で交流

「どうしたらごみをへらすことができるだろう」。かんきょうの問題をいっしょに考えようと、インターネットで交流をしている世界の若者達が、東京で集まった。集まったのはイスラエル、パレスチナの生徒と、日本各地からの小・中・高校生。みんなインターネットで世界の若者達をつなぐ「ワールド・スクール・ネットワーク」のメンバーだ。ごみから作った楽器がっきをえんそうするなどして、それぞれの活動をほうこくし、ごみ問題について話し合った。

おきなわからの生徒は、ビデオを使って、おきなわの問題について伝えた。美しい海で知られているおきなわだが、「調べてみたら、ごみがいっぱい」。少しでもごみをへらそうと、空きかんをくみ合わせて楽器がっきを作った。

若者達は、「いいアイデアを持っている人がたくさんいたのには、感心した。」と話していた。



問題 C 西中さんの作文 — 米国の教科書に



中学生の西中たか子さんの作文が、アメリカの日本語の教科書に 取り上げられました。作文は、西中さんが小学生の時に、自然の大切さについて書いたものです。

ある日、西中さんは上級生が学校の花だんを ふんでいるのを見かけました。西中さんは、その時の自分の気持ちを、「学校の花だん」という作文に書いたのです。作文は「私は花だんが大好きです」という ことばで 始まります。そして、ふまれた花を見て、「花が、『いたい、助けて』と言っているように見えました」と書いてあります。

西中さんの作文は、日本語学習用の教科書「やさしい日本語」に のりました。教科書を書いた先生の一人、谷口先生が、日本人の考え方を あらわしている作品をさがしていた時に、西中さんの作文を見つけたそうです。西中さんの作文は学習者に親しまれています。

谷口先生から西中さんへ、作文を使わせてほしいという電話があったのは今年の6月でした。西中さんは、「日本語を勉強する人のためならと思って、オーケーしました。作文を読んだ人から感想を聞いてみたい。」と話していました。

第二部

問題 D

もうすぐ夏！ご用心！「熱中症」

もうすぐ夏です。スポーツや外での遊びが楽しい季節です。しかし、暑いので体温がうまく調節できなくなる「熱中症」に注意が必要です。熱中症について、日本体育協会の伊藤さんに聞いてみました。

「熱中症」は体がまだ暑さに慣れていない時に、はげしい運動をすると、起こりやすいそうです。ですから、夏にスポーツをする時は、かぜ通しの良い、軽い服をきて、無理をしないことが大切です。また、体調が悪い時には運動しないことや、気温が35度以上に上がったなら、運動を中止することも大切です。

人は暑くなると、あせをかいて体内の熱を外に出します。しかし、あせを出して、体内の水分が足りなくなると、これがうまくできなくなって、体温が調節できなくなるのです。ですから、運動している時は、必ず水分をとることが大切です。練習中でも、試合中でも、20～30分ごとにスポーツドリンクを飲む「ウォーターブレイク」をとることが大切です。そして、この休みの時間には日かげで休んだり、タオルで体をふいたりすることも大切です。

日本体育協会ではホームページで熱中症について説明しています。アドレスは <http://www.japan-sports.or.jp/medicine/index.html> です。